

分類	主な意見の概要	事業者の見解
陸域生態系 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・コウモリ類への騒音の影響の予測は、工事における配慮が記載されているだけで、欠落している。 ・小型コウモリ類は工事による騒音、ねぐらは失われ採餌場所としての樹林や草地が失われ、振動や飛行場の存在により、大きな打撃を被るものと考えられる。 ・準備書に記載されてる山口県美弥郡秋芳町の洞窟の例にあるように、騒音・振動による出産、哺育の放棄によって個体群のコロニーの維持が困難となり、種の断絶につながる恐れがある。 ・小型コウモリ類に対する工事中の影響で、騒音レベルは予測するも、肝心の洞窟内のコウモリ類がどのような反応を示す可能性があるか記述がない。参考事例だけでなく予測すべき。逃げる可能性があれば、その旨明記すべき。 ・A洞は残るとしても滑走路の近くになり工事や完成後の航空機の騒音の影響が無いと言い切れる根拠も示してください。 ・飛行機の離発着に伴う騒音・振動が洞窟内にどの程度伝わるかは不明であるにもかかわらず170m離れているから、影響が及ぶ可能性は少ないと考えられると結論づけるのは間違い。 ・工事中に洞窟を利用する個体数が減少しても工事後に回復する可能性もあると記されているが、西表の大富第1洞と絶え間なく騒音をまき散らす飛行場とを比較するのは無意味である。 ・工事中に洞窟を利用する個体数が減少しても工事後に回復する可能性もあると記されているが、西表の大富第1洞と絶え間なく騒音をまき散らす飛行場とを比較するのは無意味である。 ・D洞はカグラコウモリの出産保育及び冬期の休眠場所として利用されているにもかかわらず、コキクガシラコウモリの例を取り「これより大きな騒音でも冬期50頭の利用があったとして、生息に影響が及ぶ可能性は少ないと考えるのはあまりに乱暴な結論。洞口付近ではなく洞内へ騒音がどの程度入ってくるのかが重要。洞窟内の騒音・振動や微気象はどのように予測されるか、その結果コウモリにどのような影響が予測されるのかの記述がない。せめて運用されている他空港の騒音・振動を測定して影響を検討するべき。 	<p>航空機の運航による影響は、事業実施区域周辺に残存する、出産・保育場所または冬期の休眠場所として利用していた洞窟までの滑走路中心から距離が離れていることや、現石垣空港の航空機の進入路の直下に位置し、滑走路の端から約250mの距離にある洞窟で冬期にヤエヤマコキクガシラコウモリ50個体の利用が観察されていることから、定性的に航空機の騒音によるコウモリ類の生息に影響が及ぶ可能性は少ないと判断しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・コウモリ類は、照明施設が設置されたら生息に影響が出ると考えられます。 ・人工的照明や騒音が、コウモリをはじめとする夜行生物を追いやり、生殖を妨げたりもする。 	<p>航空障害灯は航空機から目視できることを目的として、樹木より高い位置に設置されるものであり、照射方向は上方であることから、コウモリ類等の生息環境である樹林地の林内への影響は小さいものと考えています。</p> <p>駐車場等の照明は誘虫性の低いものを使用することからコウモリ類への影響はないものと考えています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量増加による洞窟に及ぼす振動・騒音の影響、夜間車のライトによる移動や採餌飛行への影響、道路の横断を妨げる影響について検討すべき。 ・交通量増加が及ぼす全ての影響について、追加調査を実施しその影響について検討すべき。 	<p>A洞窟及びD洞窟は空港北側に位置し、工事中および供用後に主に交通量が増加するのは南側の地点であります。このため、A洞窟やD洞窟について交通量の増加に伴う騒音・振動の影響は少ないと考えられます。飛行経路に関しても、交通量の増加が予想される場所では観察されていません(図6.12.1.1(67))。また、夜間の工事は行いません。以上から、交通量の増加に伴う洞窟への騒音・振動の影響や、移動経路の遮断、工事車両や通行車両による夜間のライトがコウモリ類の移動や採餌飛行へ影響を及ぼす可能性は極めて低いと考えられます。</p>